

2. 3. 2 国立大学の論文生産

① 日本の論文生産と国立大学

文部科学省科学技術政策研究所の分析結果によって、自然科学分野での日本全体の論文生産のほぼ半数のシェアを国立大学が占めていることが明らかにされている（注1）。さらに両者の関係を検証するため、今回内閣府において Thomson Reuters 社に独自に発注を行い、1991年から2010年までの期間の世界全体と日本全体、そして国立大学全体の論文数に関するデータの提供を受けた。その結果をグラフにしたものが図2-50である（注2）。

日本全体の論文生産に占める国立大学のシェアに鑑みれば当然のこととも言えるが、同図を見ると、日本全体の論文生産と国立大学の論文生産とはほぼ同様の軌跡を描いており、また、今まで述べてきた2000年頃を境にした日本全体での論文生産の伸びの鈍化は、そのまま国立大学の論文生産にも当てはまることが見て取れる。

（注1）文部科学省科学技術政策研究所調査資料204「科学研究のベンチマーキング2011」

（注2）論文発表年から同社のデータベースに収録されるまでにタイムラグが存在するため、同図では直近の3年間について未収録の論文数を補うための補正係数を計算して数値を補正している。今回の Thomson 社による提供データの全体について国立情報学研究所の根岸正光名誉教授が監修を行っており、補正係数についても同教授の計算による。

図2-50 論文総数の推移（直近3年のデータに補正を加えている。）
（世界全体は第2軸、整数カウント）

